



第19回院内集会

【議事内容】

- 1) 福島原発行動隊の現状 : 山田恭暉理事長
- 2) 7-8月の活動報告 : 家森健監事
- 3) 米国アクション報告 : 山田恭暉理事長
- 4) 講演「原発評価の問題点」 : 加藤尚武氏

2012.9.6.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima

福島原発行動隊 の現状

2012.9.6.

理事長 山田恭暉

●福島原発行動隊の呼びかけ

**「若年の作業者に代わり、
シニアの退役者が
最適な作業に従事する」**

●福島原発行動隊の歩み

2011年3月11日	東日本大震災
4月10日	「福島原発行動隊」呼び掛け
5月 4日	東電と会談
5月24日	細野首相補佐官 & 東電と会談
6月24日	海江田経産相大臣と会談
7月12日	福島第一原発を視察
8月 3日	政府 & 東電へ提案書提出
9月 以降	個別活動展開(モニタリング・講演、等)
	・ ・ ・



若者の被曝を守るために
シニアが放射能汚染地域の作業を
肩代わりする！

原発事故 収束作業

- ・事故収束に向けた技術や技能の提供
- ・モニタリング等、上記作業に必要な業務

障壁

■産業構造改革

- ・多層下請け構造
- ・巨大企業
- ・原子力村

■政治体制改革

- ・政府
- ・官僚政治
- ・縦割り行政

■利権構造改革

- ・地域の抱き込み
- ・癒着体質
-etc

福島
第1原発

事故
収束
作業



廃炉化
作業

福島被災地



若者の被曝を守るために
シニアが放射能汚染地域の作業を
肩代わりする！

原発事故 収束作業

障壁

■産業構造改革

- ・多層下請け構造
- ・巨大企業

何故、福一に入れないのか？

- ・事故収束に必要な業務
- ・政治体制改革
- ・政府
- ・官僚政治
- ・上記
- ・官制行政

■利権構造改革

- ・地域の抱き込み
- ・癒着体質
-etc

上記活動をバックアップする周辺活動

福島
第1原発

事故
収束
作業



廃炉化
作業

福島被災地

若者の被曝を守るために
シニアが放射能汚染地域の作業を
肩代わりする！

原発事故

障壁

■産業構造改革

国内アクション

- ・提言活動 ・モニタリング活動
- ・ウォッチャー活動（原発／法令・行政、等）
- ・院内集会活動（組織強化、議員訴求、等）
- ・勉強会
- ・文化活動（新たな老人文化の創造）

・地域の抱き込み

上記活動をバックアップする周辺活動

福島
第1原発

事故
収束
作業

廃炉化
作業

福島被災地

提言活動	・政府&東電への提言 ・民主党事故対策PTへの提言、等
モニタリング活動	・モニタリング研修 ・モニタリング講習会 ・周辺活動、等
ウォッチャー活動	・原発ウォッチャー報告 ・法令・行政、等ウォッチャー報告、等
院内集会活動	・情報交換 ・情報共有 ・コミュニケーション ・国会議員へのアプローチ、等
勉強会	・モニタリング ・被曝 ・原発構造 ・プロダクトマネジメント、等
文化活動	・平井吉夫氏講演「新たな老人文化の創造」 ・加藤尚武氏講演「原発評価の問題点」

若者の被曝を守るために
シニアが放射能汚染地域の作業を
肩代わりする！

障壁

国内アクション

- ・提言活動
- ・モニタリング活動
- ・勉強会
- ・ウォッチャー活動(原発/法令・行政、等)
- ・院内集会活動(組織強化、議員訴求、等)
- ・文化活動(新たな老人文化の創造)

米国アクション

・地域の抱き込み

上記活動をバックアップする周辺活動

福島
第1原発

事故
収束
作業

廃炉化
作業

福島被災地

活動報告

7-8月報告

2012.9.6.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima

主な活動内容	月日	場所
原発ウォッチャー会議	7/4	SVCF事務所(東京・北区)
衆参議員への院内集会告知	7/5	衆参議院議員会館(東京・千代田区)
第42回SVCF連絡会	7/6	SVCF事務所(東京・北区)
日経新聞取材:平成24年版高齢社会白書を見ての取材	7/6	SVCF事務所(東京・北区)
川内村役場訪問:猪狩副村長と会談	7/9	川内村役場(福島県双葉郡)
第18回院内集会	7/12	衆参議院議員会館(東京・千代田区)
民主党・原発事故収束対策プロジェクトチームと会談	7/12	内閣委員長室(東京・千代田区)
第43回SVCF連絡会議	7/13	SVCF事務所(東京・北区)
時事通信(芳賀記者)取材対応	7/17	SVCF事務所(東京・北区)
第44回SVCF連絡会	7/20	SVCF事務所(東京・北区)
山田理事長:秋田講演会「東京電力・福島原発の真実」	7/21	秋田拠点センターアルヴェ(秋田市)
村田光平氏と会談(福一関連情報交換)	7/24	東急エクセルホテル(東京・渋谷区)
日経新聞(藤川記者)・週刊現代(佐伯記者)取材対応	7/25	SVCF事務所(東京・北区)
フィナンシャルタイムズ(ディツキー記者)取材対応	7/26	SVCF事務所(東京・北区)
牧山ひろえ参議院議員と会談(Youth for 3.11面談)	7/26	参議院議員会館(東京・千代田区)
徳永えり参議院議員と面談	7/27	参議院議員会館(東京・千代田区)
第45回SVCF連絡会	7/27	SVCF事務所(東京・北区)
米国アクションチーム出国(7/28-8/21)	7/28	成田空港
第46回SVCF連絡会	7/31	SVCF事務所(東京・北区)

主な活動内容	月日	場所
第47回SVCF連絡会	8/3	SVCF事務所(東京・北区)
川内村支援活動:「かわうち復興祭2012」	8/12 -14	福島県川内村
第48回SVCF連絡会議	8/17	SVCF事務所(東京・北区)
米国アクションチーム帰国	8/21	成田空港
米国アクション事後対策会議	8/23	SVCF事務所(東京・北区)
森田実氏(政治評論家)と会談	8/24	都ホテル(東京・港区)
第49回SVCF連絡会議	8/24	SVCF事務所(東京・北区)
米国アクション:記者発表会	8/27	自由報道協会(東京・千代田区)
楢葉町・松本幸英町長と面談	8/27	楢葉町(福島・双葉郡)
民主党:原発事故対策プロジェクトチームへ米国アクション報告	8/29	衆議院議員会館(東京・千代田区)
牧山ひろえ議員へUSAアクション報告	8/29	参議院議員会館(東京・千代田区)
第50回SVCF連絡会	8/31	SVCF事務所(東京・北区)

米国アクション報告

2012.9.6.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima



若者の被曝を守るために
シニアが放射能汚染地域の作業を
肩代わりする！

障壁

国内アクション

- ・提言活動
- ・モニタリング活動
- ・勉強会
- ・ウォッチャー活動(原発/法令・行政、等)
- ・院内集会活動(組織強化、議員訴求、等)
- ・文化活動(新たな老人文化の創造)

米国アクション

・地域の抱き込み

上記活動をバックアップする周辺活動

福島
第1原発

事故
収束
作業

廃炉化
作業

福島被災地

●福島原発行動隊のアピール

- ①福島第一原発の事故収束作業から東電を切り離し、独立した組織を国家が作り事故収束にあたる
- ②研究開発の個別項目以外に、世界の経験・世界の知識を事故収束の現場作業にも生かすこと
- ③多層下請け構造を排し、全体を貫いたプロジェクト・マネジメントで業務や被曝，等の管理をすること
- ④透明性を担保する国際評価委員会を用意する

● 米国アクションの日程:7月28日-8月21日(25日間)



● 講演会: 全17回開催・826名参加



日程		会場	主催団体	場所	人数
7月29日	日	SEBASTOPOL GRANGE	Fukushima Response	Sebastopol, CA.	100名
7月30日	月	UKAIH UNITED METHODIST CHURCH		Ukiah, CA.	70名
8月 1日	水	UNIVERCITY of SANFURANCISCO	Steve Roddy	San Francisco, CA.	40名
8月 5日	日	EVANSTON UNITARIAN CHURCH	Chicago Peace Action	Evanston, IL.	70名
8月 6日	月	ROCKFORD URBAN MINISTRIES	Stanley Campbell	Rockford, IL.	50名
8月 8日	水		League of Women Voters	Camden, DE.	40名
8月 8日	水		DE PACEM IN TERRIS	Wilmington, DE.	30名
8月 8日	水		the wider interfaith, peace, & nuclear disarmament activist communities	Doylestown, PA.	30名
8月 8日	水		Muslim nations overseas for an international effort.	Rockaway, N.J.	7名
8月 8日	水		Nuclear Age Peace	NY, NY.	150名
8月 8日	水		Princeton Coalition for Peace Action	Princeton, N.J.	80名
8月 8日	水		CRSP Institute	Los Angeles, CA.	17名
8月 8日	水		Interfaith Community United for Justice and Peace	Los Angeles, CA.	25名
8月 17日	金	TOPANGA LIBRARY	Topanga Peace Alliance	Los Angeles, CA.	20名
8月 18日	土	TERAMACHI SENIOR HOUSING CONDOS	Nikkei for Human Rights ad Redress	Los Angeles, CA.	22名
8月 19日	日	GRACE & KENN ARON HOUSE	Women's International League for Peace & Freedom and the Social Uplift Foundation	Los Angeles, CA.	45名
					30名

「FUKUSHIMA RESPONSE org」が

- ・平和行動 ・人権保護 ・反核
- ・軍縮 ・女性の参政権獲得
- ・日系人に対する強制収容補償
- ・正義 ・環境 等をテーマとして

各地で活動する団体に呼び掛けて実現。

● 主な会談相手

分類	氏名	プロフィール	会談地
議員	NOREEN EVANS	Second senate district, CA (立候補予定)	サンフランシスコ
	LYNN WOOLSEY	US house of representatives, 6 th district, CA	
	MIKE THOMPSON	US house of representative, 1 st district, CA	
	DIANNE FEINSTEIN	US Senator, CA	
	BARBARA LEE	US house of representative, 9 th district, CA	
	RON WYDEN	US senator, Oregon	ワシントンDC
	MAZIE K. HIRONO	US house of representative, Hawaii	
その他	MARIA GILARDIN	Producer (メディア)	サンフランシスコ
	EFREN CARRILLO	District Supervisor (官僚)	
	MARK CHESTER CHANDLER	Mayor's office of international trade commerce	
	AKIO MATSUMURA	World business academy	ニューヨーク



● 主な取材対応先: 23社以上

サンフランシスコ

- Labor Video Project
- Michael lynn
- KMUD
- KZCT : Dr.G
- ENE NEWS

シカゴ

- Peoples World

ワシントンDC

- WDEL Alan Loudell

ニューヨーク

- Misa Hida (WSJ-Japan)
- The Misssing Link: Chris cote
- 共同通信
- IWJ NY



ロサンゼルス

(地元日系メディア)

- 羅府新報 : 編集長
- ブリッジUSA : 編集長+1人
- Lighthouse : 編集長
- NTB (NTV) : プロデューサー
- Magic Bell TV : 社長
- Weekly Lalala, LLC : 編集者+2人
- Cultural News : 社長

(日本系メディア)

- 共同通信 : 2人
- NHK : 1人
- 朝日新聞 : スタッフ

(その他)

- ABC TV (Channel 7) : アンカーDavid Ono & Video Cameraman
- US Congresswoman Mixine Waters' Staff (Director)
- Global Voices for Justice : Mansoor Sabbagh





若者の被曝を守るために
シニアが放射能汚染地域の作業を
肩代わりする！

障壁

国内アクション

- ・提言活動
- ・モニタリング活動
- ・勉強会
- ・ウォッチャー活動(原発/法令・行政、等)
- ・院内集会活動(組織強化、議員訴求、等)
- ・文化活動(新たな老人文化の創造)

米国アクション

EUアクション

・地域の抱き込み

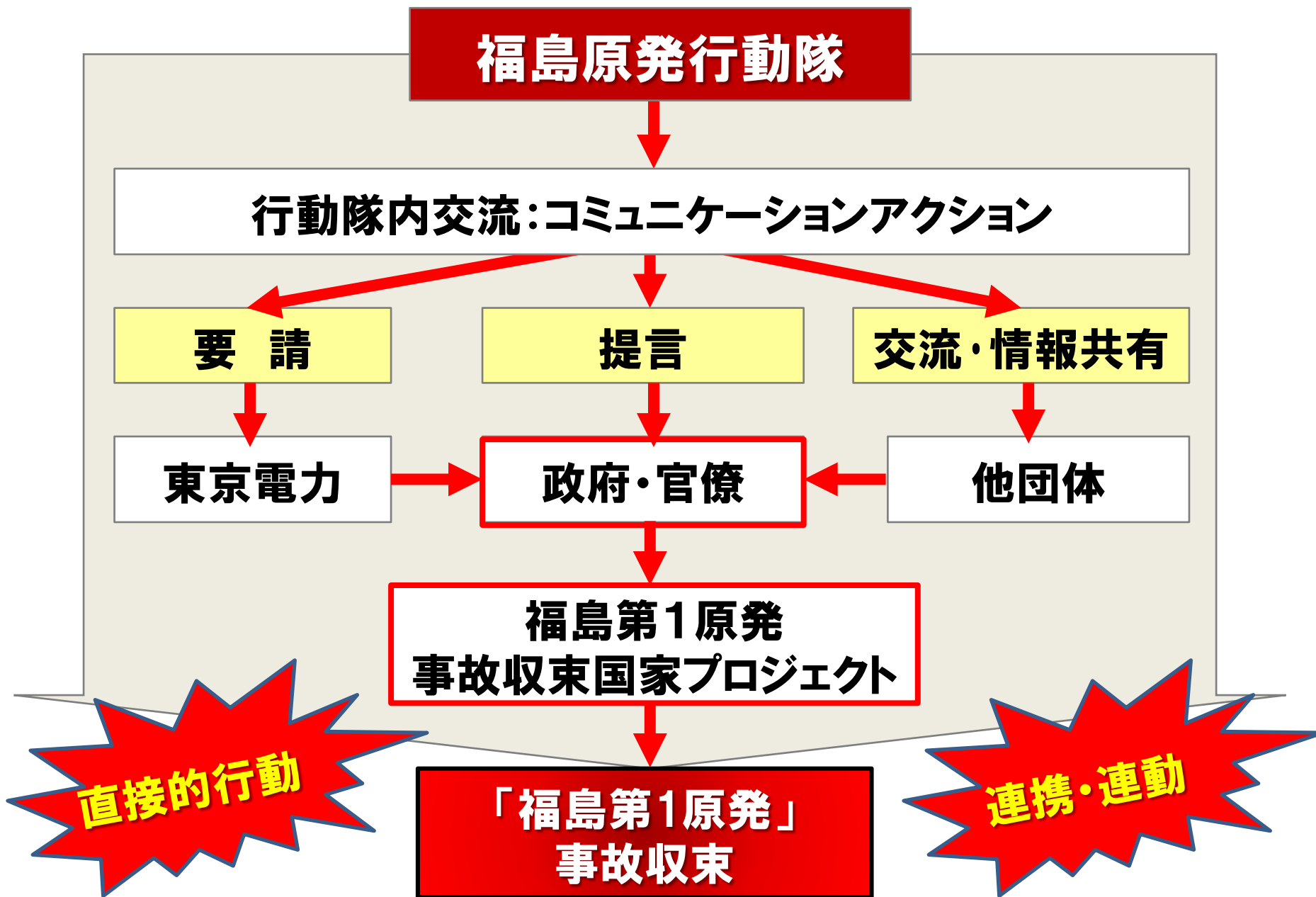
上記活動をバックアップする周辺活動

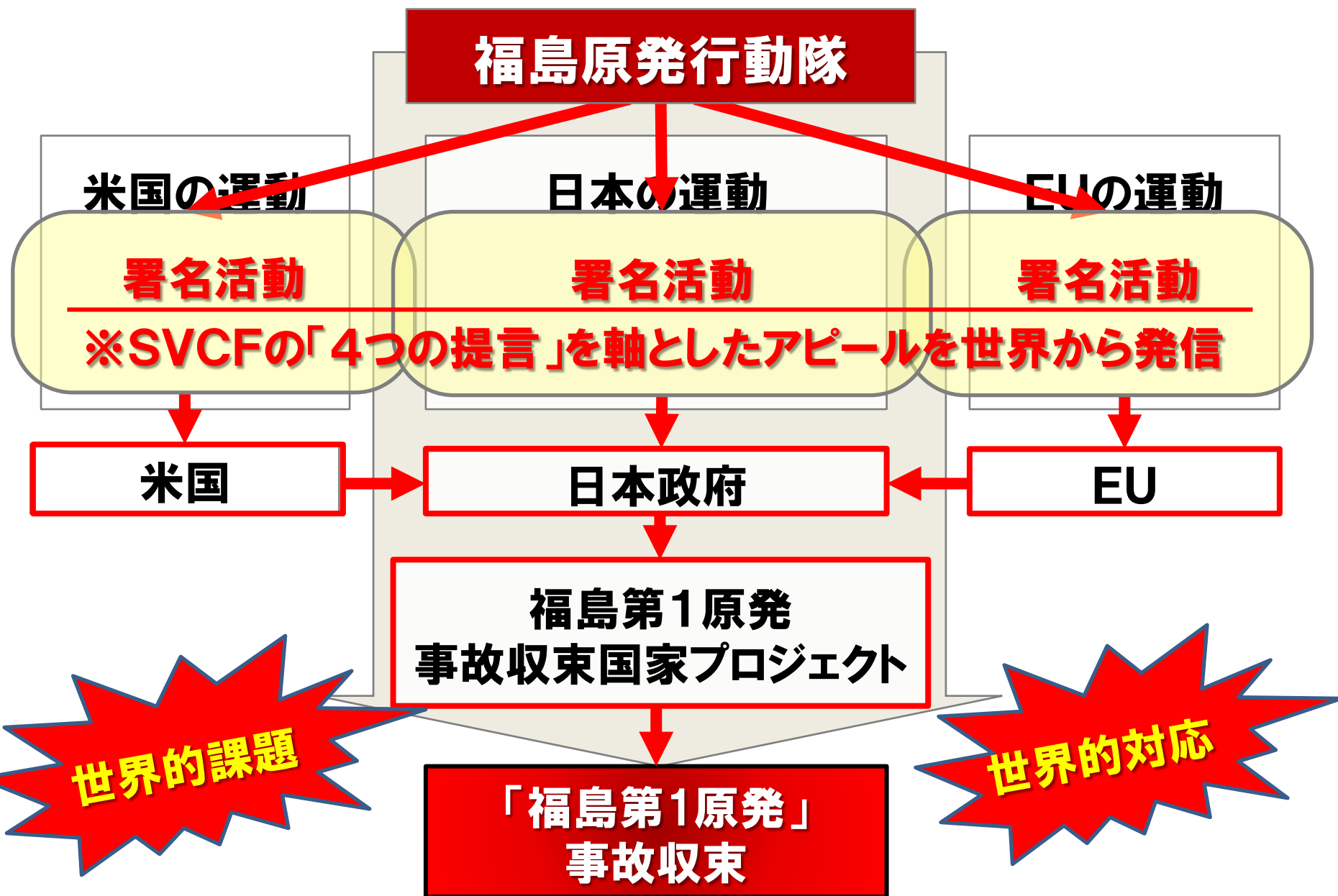
福島
第1原発

事故
収束
作業

廃炉化
作業

福島被災地





原発評価の問題点

福島原発行動隊・院内集会

2012年9月6日

加藤尚武(哲学)

1. 事故調以後の問題点

- **原子力発電のコストが最終的にいくらになるか**
- **原発維持・管理から最終処分の終了までの地震対策ができているのか**
- **事故対策の今後の手順ができているのか**

2. 最終コスト

- **TECHNOLOGY ASSESSMENTの原則**
- **自然状態から原料の採掘、加工、使用、廃棄の全課程のコストと便益を比較する**
- **この原則を無視して原発依存率を決定することは無意味**
- **核廃棄物：千年間の完全管理、自然状態レベルに達するまでの監視**

3. 千年間の完全管理

- **設計主義：現代の土木技術・建築技術を駆使すれば、日本国内での千年間の完全管理体制を設計することが可能**
- **自然主義：外挿法による設計では、使われるデータが千年間有効であるという保証がないから、設計による安全は信頼できない**
（建築の場合は、日本では10年以内に安全基準を変更。安全基準の耐用年数は10年以下）

4. 自然状態レベルに達する期間

- 従来では、10万年説がほぼ定説化していたが、最近、100万年説が登場
- 迷惑施設の設置にかんする住民への「迷惑料」を100万年分用意すべきである
- 廃棄物の処理費用を、電力を使用していない世代に転化してはならない
- 「同意原則」の蹂躪に対する保証料

5. 地球規模の自然主義

- 地震国日本の国内で廃棄物の処理場を建設することは不合理である
- 唯一の合理的な処分法：地球全体のなかでもっとも地層の安定した場所を選び、20万トンもしくは30万トンと言われるすべての核廃棄物を埋蔵処分する
- 地球規模での自然主義的な処分が可能になるまでの000年間、核廃棄物を地上で安全管理
→そのコストを算定せよ

6. ルイスの「最悪想定否定説」

- 「最悪のケースの計画がわれわれの社会に蔓延している。 NASAはシャトルの安全保証を最悪ケース解析への依存から断ち切るために奮闘しているが、成功しているとは言えない。 最悪のケースをカバーしていれば全てをカバーしているのだという考え方には、ほとんど催眠術的な魅力がある。 しかし、それは真実ではない。」

(ルイス「科学技術のリスク」宮永一郎訳、昭和堂1997、104頁)

7. 斑目春樹氏の発言

- 2011年3月22日の参議院予算委員会で、非常用ディーゼル発電機や制御棒など重要機器が複数同時に機能喪失することまで想定していない理由を社民党の福島瑞穂に問われ、
「そのような事態は想定していない。そのような想定をしたのでは原発はつくれないから、どこかで割り切らなければ原子炉の設計ができなくなる」と回答した。 ルイス主義の踏襲。

8. 職員総撤退の可能性

- 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会は報告書で、
全面撤退は官邸の誤解であるが、官邸に誤解が生じた根本原因は、東京電力の社長清水正孝が、極めて重大な局面ですら、官邸の意向を探るかのような曖昧な連絡に終始した点に求められる、とした。

9. 逃げた自衛官

- 福島第一原発事故の災害派遣先からトラックを盗んで逃げたとして、陸上自衛隊練馬駐屯地(東京)は19日、第1特殊武器防護隊の前床(まえとこ)祥一郎3等陸曹(32)を懲戒免職にし、発表した。

前床3等陸曹は「原発事故への恐怖心でパニックになって逃げた」と話しているという。

10. 緊急避難、刑法第37条

- 自己又は他人の生命、身体、自由又は財産に対する現在の危難を避けるため、やむを得ずにした行為は、これによって生じた害が避けようとした害の程度を超えなかった場合に限り、罰しない。
ただし、その程度を超えた行為は、情状により、その刑を減輕し、又は免除することができる
- 前項の規定は、業務上特別の義務がある者には、適用しない

11. 決死隊は必要がないのか

- 日本の原子力発電所の管理体制は、「決死隊の必要が絶対に発生しないように作られている」と言えるか
- 「決死隊の必要が発生する可能性はあるが、決死隊となるべき業務上特別の義務がある者を定めていない」という状態であろう
- おそらく政府も電力会社も、「決死隊となるべき業務上特別の義務がある者」を定めるということは、今後もしないだろう。職員総退却の可能性は存在し続ける

12. 最悪事態の想定

- 原発事故によって、大量の放射性物質が環境に放散している状況で、原発の安全を確保する可能性について
- 福島第1原発4号炉の使用済み核燃料が飛散を免れたのは、まったくの偶然であったことが判明している
- 「安全対策を強化した」という言辞が、相変わらず、ルイス斑目路線のなかで語られている